



「読みたい！」と思わせたら勝ち

あちこちで静かなブーム
ビブリオバトル

ビブリオバトルは、発表者がお薦めの本の魅力を5分間で紹介し、聞いていた人たちが「一番読みたくなった本」(チャンプ本)を投票で決める知的書評合戦です。関西の大学を中心に広がり始め、全国の図書館や書店などでも行われるようになりました。秋田県内では、大館市立中央図書館や秋田大学附属図書館で開催されたことが、新聞等でも取り上げられています。

県は、「幼少期からの読書推進フロンティア事業」として、今年度、ビブリオバトルを県内4か所で開催します。

ただ今、高校生と大学生の発表参加者を募集中です。ご希望の方は、秋田県教育庁生涯学習課生涯学習・読書推進班に、氏名・連絡先をご記入の上、FAX(018-860-5816 担当館岡)でお申込みください。参観の場合は、申込みの必要はありません。直接会場においでください。

| 発表者 | 開催日 | 開催時間 | 会場 |
|-----|-----------|-------------|-----------|
| 高校生 | 10月4日(土) | 13:30~14:30 | 大館市立中央図書館 |
| 大学生 | 10月18日(土) | 14:00~15:30 | 秋田大学附属図書館 |
| 高校生 | 11月8日(土) | 14:00~15:00 | 美郷町学友館 |
| 高校生 | 11月15日(土) | 13:00~14:00 | あきた文学資料館 |

先行実施した高等学校での取組の様子を紹介します！

秋田県立秋田中央高等学校

実施日：平成26年1月29日
場 所：学校図書館

進路が決定した3年生を対象に実施しました。当日の参加者26人は、4グループに分かれて予選を行い、それぞれのグループのチャンプ本が決勝に進みました。紹介された本の多くは小説でしたが、自己啓発書、伝記、図鑑などもありました。

始めは、5分の長さを使い切ることが不安そうにしている生徒たちもいましたが、ほとんど全員が時間いっぱい話をすることができました。自分の言葉で臨機応変に対応する姿や、緊張している生徒をフォローしたり自然に拍手が起こったりする場面も見られました。総じてイベントとして楽しみながら取り組んでいました。

参加した生徒たちは、「他の人が紹介した本も面白そうだった。」と話していました。



秋田県立大館国際情報学院高等学校

実施日：平成26年5月30日
場 所：学校図書館

図書委員会主催の「第1回ビブリオバトル」を開催したところ、飛び入りも含め、10人のバトラーと見学者、合わせて30名が参加しました。

紹介された本は、『いとみち(越谷オサム作)』、『神去なあなあ日常(三浦しをん作)』、『オー！ファザー(伊坂幸太郎作)』、『白ゆき姫殺人事件(湊かなえ作)』、『はつ恋(ツルゲーネフ作)』、『三国志』など。人気作家の作品から古典の名作まで、様々な本が紹介される中、『風に訊け(開高健作)』がチャンプ本に選ばれました。

この本を紹介した2年生の原田さんは、「今回初めてビブリオバトルに参加したのですが、まさか優勝するとは思っていませんでした。緊張はしましたが、参加した人たちの本に対する様々な思いを聞くことができ、とても楽しかったです。」と感想を述べていました。

お知らせ

東日本地区国語問題研究協議会への参加者募集

期日：8月7日(木)、8日(金)

場所：パーティーギャラリーイヤタカ

第3部会は、読書活動の推進についての実践発表と意見交換。講演会の講師は伊奈かつぺい氏。申込みは当日まで可。詳細は義務教育課HPで。

「読書絵はがきコンクール」への作品募集

応募期間：7月1日(火)～9月26日(金)

応募資格：県内の幼児から中学生まで

はがきに、おはなしの世界を絵で表し、メッセージを添えて秋田県児童会館にお送りください。詳細は、秋田県教育庁生涯学習課HPにある要項をご覧ください。



平成26年度子どもの読書活動優秀実践校
文部科学大臣表彰

五城目町立五城目小学校



ブックトーク本番！

<地域ボランティアの活用>

ピアノ伴奏に合わせたり、教師のリクエストに応えたりしながら読み聞かせを行う方々や、図書修理を行う方々がいます。

<国語科の読書単元の工夫>

子どもたちが自分でテーマを決めてブックトークを行いました。ボランティアの実演でイメージをつかみ、これまでの自分

の読書経験を記録してきた「読書貯金通帳」を活用して本を選択しました。そして、昼休みを使い、三日間にわたって図書室、玄関、廊下などで、ワークショップ形式で行いました。

<子ども読書の日 読み聞かせ>

全校読書タイムのほかに、6年生が1年生に、1対1で読み聞かせをする「ホーンタイム」

を行っています。

<ブック委員会の本の貸出>

本にぬいぐるみを付けて貸出したところ、利用者が増え、活字のみの高学年向けの本も多く読まれるようになりました。

大仙市立中仙図書館がつなぐ 幼少期の読書を支える大人たち

毎月第3金曜日、大仙市の中仙市民会館ドンパル内にある「こどもの遊び場 うさちゃんひろば」では、図書館と保育アドバイザー、読み聞かせボランティアが連携しておはなし会を実施しています。若いお母さんたちにとっては、育児についての情報交換の場にもなっています。

6月20日（金）は、おはなし会とボランティアの研修会が行われました。

絵本となかよし会



大型絵本に夢中の子ども

この日は、読み聞かせボランティア「ほたるの会」の5名が、「きんぎょがにげた」「だるまさんが」などの大型絵本を読み聞かせした後、「小

親と一緒に行いました。

言葉を理解できる子どもたちは、指をさしたり問いかけに応じたりすることで絵本を楽しみ、0歳の赤ちゃんは、ゆらゆら抱っこさ



輪唱をリードするボランティア

れながら心地よさそうに言葉の響きを聞いていました。最後は参加者全員で「かえるの歌」を輪唱し、会場は温かい空気に包まれました。

「打って出る司書」研修会

ボランティアと中仙図書館職員の方々を対象に、県立図書館の司書が出前研修を行いました。



出前研修会の様子

今回は、月齢の低い子どもを対象にしたおはなし会のプログラム構成や小道具の使い方、参考図書などについて情報提供しました。「失敗しても臨機応変に笑いに変えること」「子どもが親の腕の中に戻るきっかけをつくること」などの



手袋人形とパネルシアターの実演



助言に対し、参加者たちは大きくうなずきながらメモを取っていました。

平成26年度秋田県図書館大会

6月13日（金）、「図書館が変わる—秋田の図書館活性化に向けて—」をテーマとする秋田県図書館大会が秋田県庁第二庁舎で行われました。県内外における新しい取組の事例に触れつつ、今後の公立図書館の在り方と秋田県における図書館活性化の方途を見出すための協議に、約90名が参加しました。

塩尻市立図書館の新館開館時の館長であった内野安彦氏による基調講演に続き、羽後町立図書館長、大館立中央図書館長、岩手県紫波町立図書館

主任司書の皆さんによる実践発表と協議がありました。「子ども司書養成講座」や「指定管理者制度」、「農業支援」といった異なる切り口から、図書館サービスを考える機会となりました。



図書館大会での協議の様子

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>